

悪用される祖母の愛

「週末寸言」20120218

一向に振り込め詐欺の被害が絶えない。その被害者を新聞報道などから拾ってみると年配のご婦人が圧倒的に多い。警察庁統計によれば被害者の性別では70%が女性、年齢別では60歳以上が全体の約80%、つまり高齢のご婦人がこの犯罪の主たる被害者である。

振り込め詐欺の犯行はもっぱら電話によって行われている。こういう現状を受けて、大分県警は「被害に遭いやすい名前」の人に、NTTの電帳から氏名を削除するよう促しているそうだ。つまり、高齢女性に多い名前「キク」とか「ハナ」といったカタカナ表記、末尾が「代」、「枝」、「江」、「子」などの人が対象だと新聞にあった。この伝で言えば、近頃猖獗を極めている風変わりな名前は読めない上に性別も多くは不詳なので、彼らがおばあちゃんになるころには電話では犯行ができない。なる？かも知れない。もっとも、その頃にはデジタルデバインドが解消されていてネットをつかったハイテク詐欺に進化しているかも知れないが。

振り込め詐欺の手口は、息子や孫（なぜか男子が多い）が不始末を起こしたというのっぴきならない虚偽事実を押し付けられて、これに一人住まいの祖母や母が狼狽した瞬間に引っかけられてしまい、まゐんと大金を奪い取られるということのようだ。つまり、老母や祖母の子や孫に対する深い愛情こそ、悪徳な犯人にとって格好のねらい目なのである。人間としての深い愛情の発露を悪事に利用するとは、これほど腹立たしい悪辣な犯罪はない。

それにしても、こうやすやすと犯罪者の手口に墜ちるとは、おばあちゃんやおかあちゃん達にも多少の責が有るかも知れない。つまり、犯人たちもデッチ上げたシナリオ（女性問題・公金横領・有料サイト請求・交通事故示談等々）に幾ばくかの真実らしさを感じているからではないか。かつて孫や息子を育てていた時期に、彼らに対する多少の不信用を心の中に醸していなかったかどうか。

電話帳から名前を消す前に一度この点を反省してみる必要があるかも知れない。臭い匂いは元から絶たないとダメなのだから。